

謹賀新年

(一社) 全日本川柳協会 2020年



日川協通信 (124)

令和2年1月1日



一般社団法人 全日本川柳協会
〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目
北一一一九〇五

電話 (06) 6352-2210
FAX (06) 6352-2433
振替口座 00970-9-3575

<http://www.nissenkyo.or.jp>

ご挨拶

理事長 小島 蘭 幸

あけましておめでとうございます。
昨年はいろいろとご協力をいただきありがとうございました。
本年もよろしくお願ひ致します。

さて昨年を振り返りますと、台風、豪雨、大停電と大きな被害が相次ぎました。一日も早い復興を願っています。

日川協の副理事長として活躍された久保田半蔵門氏をはじめ、多くの先達、柳友のご逝去もありました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

日川協の行事では、全日本川柳誌上大会(平成柳多留第21集)、第43回全日本川柳2019年浜松大会、第34回国民文化祭に

いがた2019を多くの皆様のご協力を得て無事終えることが出来ました。12月10日の理事会では、組織の強化に向けて熱く活発な意見交換を行いました。

今年現在は、全日本川柳誌上大会(令和柳多留第1集通巻22号)と第13回川柳文学賞を募集中です。どちらも締切りは1月末日ですので、ご応募よろしくお願ひ致します。

6月14日には、第44回全日本川柳2020年秋田大会、11月8日には、第35回国民文化祭みやざき2020を開催致します。是非出席して柳友との交流、大会を楽しんで下さい。私が今日まで川柳を続けてこられたのは、15歳の時から各地の川柳大会に出席したからだと思えます。多くの人に会えて沢山の佳句を聞くことが出来る川柳大会は本当に楽しいです。多くの人に大会の楽しさを味わっていただきたいものです。私は現在、地元の竹原川柳会、大阪の川柳塔社、全国郵政川柳人連盟、広島県川柳協会、一般社団法人全日本川柳協会に所属して川柳を楽しんでおります。

本年が災害の無い穏やかな年でありますように心から願っています。

第43回 全日本川柳 2019年 浜松大会

(当日参加者 626名/事前参加者 1,729名/ジュニア参加者 4,078名)

文部科学大臣賞

脇道を走り人間らしくなる

東京 上村 脩

参議院議長賞

マイバッグ忘れぬぼくは地球人

青森 高瀬 霜石

川柳大賞

縁日の金魚を光ごと掬う

福岡 梅崎 流青

大会賞

走れ走れあなたが描いた空なんだ

宮城 月波 与生

選択肢なんてないのさハムレット

静岡 句ノ一

背景の富士が気品を問うてくる

北海道 小沢 淳

平成が終わったよくぞ働いた

福岡 敷田 無煙

おばちゃんはずバズバ言うが飽くれる

宮城 齋藤 晃

まっすぐに俺は立っているか富士よ

静岡 松田 タ介

わたくしを晒してわたくしを磨く

青森 北山まみどり

臓器移植今からこの人と生きる

広島 福田 淳子

ドラムソロもうさざ波でいられない

秋田 大石 一粹

トランペットに合わせて走れ少年期

青森 千島 鉄男

天と地の自由を選び樹木葬

茨城 岡 さくら

ジュニア部門

静岡県知事賞

たこあげて空をいっばいすわせるぞ

広島 宮園小1

下沖 勇心

静岡県教育長賞

いまのぼくバランスとれる尾がほしい

岩手 大野小5

上野 寧大

浜松市長賞

握手して世界平和をめざすんだ

広島 佐方小6

藤枝 利胡

浜松市教育長賞

あく手はねギユツとにぎると温かい

広島 佐方小3

原田 七愛

静岡県文化協会長賞

カタカタと走る背中のランドセル

徳島 石井小6

榊 胡桃

全日本川柳協会賞

またきてねじしの車をおいかける

岩手 城北小2

土田 雪乃

静岡県川柳協会長賞

切れちゃったぼくと凧との友情が

広島 金剛寺小6

神田 康佑

静岡新聞社賞

テスト前急いでペンを走らせる

熊本 飽田中1

村田 光輝

中日新聞社賞

お母さん胎児と握手動いたよ

静岡 清水興津小4

杉山 優羽

令和元年度（6月16日）

第2回理事会 東西合同常任幹事会 通常総会

場所 アクトシティ浜松

定足数の確認のあと議事録署名者選出

東西常任幹事会・総会 議案

議案第一号 平成30年度事業報告承認の件

議案第二号 平成30年度

収支決算報告承認の件

報告第一号 平成30年度監査報告の件

議案第三号 任期満了に伴う理事・監事選任

および新常任幹事選出の件

報告第二号 全国大会表彰の件

その他

理事会 議案

議案第一号 2020年度の題と選者の件

議案第二号 役付理事の選任の件

その他

右の議案案件について審議の結果、理事会

総会で承認された。

大会連続出席者

連続10回参加

勝又 恭子・中前 棋人・水品 団石

望月 弘・弘兼 秀子・高木 旬笑

土橋 旗一・横尾 信雄

連続15回参加

辻 敬子・辻 晩穂・松浦美恵子

鈴木さくら・渡辺 松風・田原せいけん

連続20回参加

荻原美和子・本田 智彦

＜マスコミ柳壇の指導を10年以上行った者＞

石川 川柳・今田 久帆・望月 弘

＜特別表彰＞

杜 青春

＜第15回80歳以上の功労者顕彰＞

青木土筆坊・真弓 明子・近江あきら

久崎 田甫・平山 繁夫

＜第12回川柳文学賞＞

正賞 川柳佐美ストコレクション 徳永 政二

準賞 「あぶく」 徳永 政二

「川柳佐美ストコレクション 赤松ますみ」 黒川 孤遊

「川柳佐美ストコレクション 赤松ますみ」 赤松ますみ

第43回浜松大会選者

第一部 事前投句選者

「富士」 佐藤 清泉 選

「光」 久保田 千代 選

「楽器」 小林 信二郎 選

「働く」 小笠原 望 選

第二部 当日投句選者

「さすが」 渡辺 梢 選

「選ぶ」 村上 氷筆 選

「走る」 西 恵美子 選

ジュニア部

「凧」 濱山 哲也 選

「走る」 嶋田 昭紀 選

「握手」 碓氷 祥昭 選

第二選者

本田 智彦・天根 夢草

江畑 哲男・安藤 紀楽

石田 一郎

（順不同・敬称略）

一般社団法人 全日本川柳協会役員

(順不同・敬称略)

常任幹事

A1地区

高橋みつちよ・辻 晚穂・浪越 靖政

A2地区

佐藤 古拙・濱山 哲也・福士 慕情・大石 一粹
 館岡 稲風・藤 咲子・渡辺 松風・熊谷 岳朗

あきたじゅん・西 恵美子・仁多見千絵・山口まもる
 駒木 香苑・山田 昇

A3地区

江崎 紫峰・太田紀伊子・矢野 義雄・酒井 青二
 高鶴 礼子・てじま晩秋・花道 歌子・渡辺 梢

荻原 鹿声・篠田 東星・黒崎 和夫・田中寿々夢
 原名 幸雄・及川竜太郎・太田ヒロ子・大竹 洋

川崎 信彰・柴垣 一・名雪 凜々・堀江 加代
 米島 暁子

A4地区

安藤 波瑠・いしがみ鉄・石川 川柳・上村 脩
 大野 征子・川上 勉・齊藤由紀子・佐藤 孔亮

佐道 正・渋川 溪舟・竹田 光柳・田中八洲志
 西潟賢一郎・平井 熙・福井 勲・藤井 敬三

理事長 小島 和幸(蘭 幸)

副理事長 江畑 哲男(哲 男)

副理事長 天根 利徳(夢 草)

常務理事 岡崎 守(守)・赤井 二郎(花 城)

霰石 隆子(隆 子)・田中 新一(新 一)

理事兼事務局長 本田 智彦(智 彦)

理事 平田 朝子(朝 子)・松代 章弘(天 鬼)

佐藤 美文(美 文)・植木 利衛(利 衛)

島田 信一(駱 舟)・菅原 孝志(孝之助)

鈴木 公弘(公 弘)・長谷川三紀夫(醉 月)

安藤 紀佑(紀 楽)・今田 久帆(久 帆)

坂下 清(清)・福本 清美(清 美)

監事 矢澤 和女(和 女)・高瀬 一博(霜 石)

相談役 大野 風柳・磯野いさむ

顧問 河村 建夫・池井 優・川村 恒明

塩見 草映・近藤 勝重・河内 天笑

平山 繁夫・辻原 登

A 5地区

荻原美和子・金子美知子・堀井 勉・水野 壱郎

八木せいじ・渡辺 貞勇・岩田 明美・佐藤 清泉

A 6地区

小林信二郎・菅沼 匠・仁谷 敏衛・石田 一郎

B 1地区

門田 宣子・岩原 茂明・河崎香太郎・酒井 路也

久崎 田甫

B 2地区

荒川八洲雄・重徳 光州・鈴木 順子・大島 凧子

小林 映汎・大嶋都嗣子・宮村 典子

B 3地区

小梶 忠雄・植野美津江・大楠 紀子・阪本 高士

川上 大輪・三宅 保州

B 4地区

赤松ますみ・碓氷 祥昭・くんじろう・高田美代子

伊達 郁夫・田中 螢柳・土田 欣之・西出 楓楽

西山春日子・村上 玄也・森中惠美子・山野 寿之

B 5地区

安部 美葉・上野多恵子・岡田 篤・長島 敏子

村上 水筆

B 6地区

稲村 遊子・新家 完司・田中 一眸・牧野 芳光

B 7地区

高木 勇三・浅原志ん洋・嶋田 昭紀・弘兼 秀子

大場 孔晶・宮本 仙舟

B 8地区

土橋 旗一・栗田 忠士・仙波 草苑・小笠原 望

竹崎たかひる

B 9地区

梅崎 流青・古谷龍太郎・横尾 信雄・井上 万歩

永石 珠子・平井 義雄・黒川 孤遊・徳丸 浩二

松村 華菜・安永 理石・安部 征二・泉 談亭

進藤すぎの・麻井 文博・大田かつら・高松 呑海

第13回 川柳文学賞募集

日川協では川柳の普及向上を目的として、毎年1年間に出版された川柳個人句集のうち、もっとも優れた川柳句集に対して「川柳文学賞」を授与しています。
2019年1月から12月末日までに刊行した句集6冊及び同句集の概要説明書を2020年1月末日までに当協会の「川柳文学賞」選考委員会宛にお送りください。沢山のご応募お待ちしております。

正味財産増減計算書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,583	28,637	△ 27,054	
受取入金会	18,000	3,000	15,000	
柳社入金会	9,000	3,000	6,000	
個人入金会	9,000	0	9,000	
受取会費	5,253,000	5,982,000	△ 729,000	
理事会費	480,000	480,000	0	
常任幹事会費	2,904,000	3,108,000	△ 204,000	
正会員会費(団体)	1,778,000	2,303,000	△ 525,000	
正会員会費(個人)	91,000	91,000	0	
普及向上事業収益	13,082,759	15,719,018	△ 2,636,259	
誌上大会	2,692,000	2,340,000	352,000	
電子出版	0	297,000	△ 297,000	
全国大会(事前)	1,833,667	1,824,000	9,667	
全国大会(当日)	6,050,664	6,462,340	△ 411,676	
国民文化祭	0	1,439,000	△ 1,439,000	
表彰後援事業	153,000	149,102	3,898	
選考協力事業	2,353,428	3,207,576	△ 854,148	
受取補助金等	3,771,028	3,734,703	36,325	
受取寄付金	194,102	0	194,102	
雑収益	272	4,124	△ 3,852	
経常収益計	22,320,744	25,471,482	△ 3,150,738	
(2) 経常費用				
事業費	20,945,388	24,998,141	△ 4,052,753	
給料手当	3,039,240	3,815,504	△ 776,264	
臨時雇賃金	797,880	774,400	23,480	
退職給付費用	142,500	142,500	0	
会議費	0	108,565	△ 108,565	
旅費交通費	1,750,476	1,527,557	222,919	
通信運搬費	1,792,485	1,662,743	129,742	
支払手数料	5,862	10,558	△ 4,696	
消耗品費	217,718	318,700	△ 100,982	
印刷製本費	2,620,188	3,365,428	△ 745,240	
光熱水料費	96,784	111,106	△ 14,322	
賃借料	1,185,153	1,185,153	0	
保険料	40,100	62,450	△ 22,350	
諸謝金	2,558,404	3,183,000	△ 624,596	
表彰後援費	633,934	543,835	90,099	
広告宣伝費	0	20,000	△ 20,000	
実行委員会運営費	6,050,664	6,462,340	△ 411,676	
借損・設営費	0	322,920	△ 322,920	
雑費	14,000	1,381,382	△ 1,367,382	
管理費	1,880,597	1,959,790	△ 79,193	
給料手当	159,960	200,816	△ 40,856	
退職給付費用	7,500	7,500	0	
福利厚生費	66,610	26,245	40,365	
会議費	208,425	154,156	54,269	
旅費交通費	208,440	334,170	△ 125,730	
通信運搬費	94,341	87,512	6,829	
支払手数料	1,017	864	153	
消耗品費	11,459	16,773	△ 5,314	
印刷製本費	0	116,987	△ 116,987	
光熱水料費	5,094	5,847	△ 753	
賃借料	62,376	62,376	0	
保険料	9,800	0	9,800	
法定福利費	525,335	611,700	△ 86,365	
租税公課	70,000	70,000	0	
接待交際費	7,840	8,708	△ 868	
支払寄付金	194,102	0	194,102	
雑費	248,298	256,136	△ 7,838	
経常費用計	22,825,985	26,957,931	△ 4,131,946	
当期経常増減額	△ 505,241	△ 1,486,449	981,208	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
退職給付取崩益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
(該当なし)	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期正味財産増減額	△ 505,241	△ 1,486,449	981,208	
一般正味財産期首残高	5,067,865	6,554,314	△ 1,486,449	
一般正味財産期末残高	4,562,624	5,067,865	△ 505,241	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	21,000,000	21,000,000	0	
指定正味財産期末残高	21,000,000	21,000,000	0	
III 正味財産期末残高	25,562,624	26,067,865	△ 505,241	

監 査 報 告 書

一般社団法人全日本川柳協会

理 事 長 小 島 和 幸 殿

平成 31 年 4 月 19 日

一般社団法人 全日本川柳協会

監 事 秋 田 恂 
監 事 矢 澤 和 彦 

私は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの第 27 期会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類及び公益目的支出計画実施報告書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の損益及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

第12回川柳文学賞受賞作品

正賞 『川柳作家ベストコレクション』

徳永政二 徳永政二 黒川孤遊

準賞 『あぶく』 黒川孤遊
『赤松ますみ』 赤松ますみ

『川柳作家ベストコレクション』

2019年6月15日、静岡県・ホテルクラウンパレス浜松にて授賞式が行なわれ、雫石隆子選考委員長をはじめ、多数の川柳家にお集まりいただき、賞状、盾と副賞10万円が、受賞された徳永政二氏に手渡されました。また、準賞を受賞された黒川孤遊氏、赤松ますみ氏には賞状、盾、副賞3万円が手渡されました。第12回川柳文学賞は平成30年に発刊された句集のうち、申請のあつた46冊を選考委員（雫石隆子・佐藤美文・新家完司・梅崎流青・林えり子（作家））5名（敬称略）が選考しました。

■総評 選考委員長・雫石隆子

正賞 「川柳作家ベストコレクション 徳永 政二」 徳永 政二（滋賀）

評（一位推薦） 佐藤 美文
この作者は、柳歴33年のベテランである。それら相応しい作品群に共感するものが多かった。川柳は下五に意外性を持つてくると面白い句になると言われるが、そんな作品も多かったように思う。「菜の花のきいろきいろに誰かいる」この句も、そんな作品である。迷わず一位に推した。

評（一位推薦） 新家 完司
分かりやすい句と、分かりにくい句の比率が絶妙で刺激的である。分かりやすい句としては「食べながら話す死ぬとか生きるとか」など。分かりにくい句としては「こゝまでは水でこゝから私です」などであるが、立ち止まって考えさせるだけの独自性と魅力があり、難解すぎることはない。「リフレイン効果」も、句集として纏めたとき多量に過ぎる感を持った。

評（二位推薦） 雫石 隆子
日常を詩的に詠いあげ、一句の景色がくつきり見えてくる。淡々とした気負いのない文体にも好感が持てる。確立された徳永政二ワールド、どの作品を切り取っても唯一無二の作品であり、作者自身が見える。

準賞 「あぶく」

黒川 孤遊（熊本）

評（一位推薦） 雫石 隆子
応募された句集の三分の二が（35冊）商業誌の200号記念企画で出版されたものだったのが、内容はともかくと同じ装丁の没個性のものである。形をかえた合同句集である。そのような句集を文学賞の対象にするか、考えてしまう。句集「あぶく」は、刊行の趣旨として「サラ川、シルバー川柳」といった、自虐的な遊びの川柳と異なる文学としての川柳の存在性を広く示したい」と述べている。

「あぶく」の文学性を追求する作者の姿勢、男性作家ならではの骨太な作品を評価したい。また、多くが二百〜三百冊という発行部数だが八百冊を出しており、受賞作として多数の手に届くものである。

評（三位推薦） 梅崎 流青

勧められて発刊する人が多い中で、自らの意志で出版されたことに拍手を送る。サラ川など一線を画すべきという考えが背骨となっていることも見逃せない。作品中にみえる作者の人間性に共感する。

評（三位推薦） 林 えり子

「言葉を聴く奈良で聴く鐘を聴く」この一句で推薦を決めた。リフレインが詩性を高めている。いま風の駄洒落と一線を画し、川柳の文学性を取り戻そうとする姿勢を評価する。

準賞 「川柳作家ベストコレクション 赤松ますみ」 赤松ますみ（大阪）

評（一位推薦） 新家 完司
作品は、平凡を脱して「詩」としての奥深さを持たせている。その手法は「のみこんだ言葉が湾になつていっている」のように、言葉で表し難い想いを具象に託して伝達性を持たせるようになっている。また、「大好きな町やまももが熟れている」「生き方の本が売られている露店」のように、情景そのままを詠ったものにも、作者の「想い」が十分にみ取れる。

評（一位推薦） 梅崎 流青

川柳を知ってからの歳月は濃密だった。——という後書きは、読み手の琴線に触れる。川柳が未知なる自分を誘い見いだしてくれ、という川柳賛歌。川柳は苦しさがあるから楽しいという逆説。川柳は自身を磨いてくれるヤスリ、という作者に共感を覚える。作品に社会性、言葉に不思議な力が宿る言霊を信じ、恐る想いが作品にある。

※ 選評は誌面の都合により、要約を掲載致しております。

選外佳作

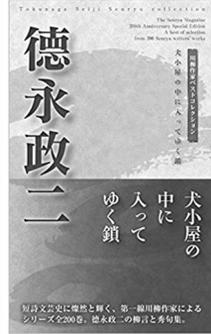
栗原 道夫 北山 まみどり 岡崎 守 徳山 みつこ

「うすもいろうの花陰」 橋本 涼子（川柳作家ベストコレクション）

「柘榴」 荻野 浩子

応募総数 46冊

徳永政二氏



平成30年6月3日発行
新書判ソフトカバー・96頁
新葉館出版 定価1200円(税別)

■ 主な掲載作品『川柳作家ベストコレクション 徳永 政二』

青い山ときどき通る青いバス
石けんを握るさみしくなんかない
花引くと小さな虫がついてくる
夕焼けをひっぱっている鳥の数
しばらくはじつとしている山の鳩
こころとはどんなものかと石段を
何も書いていないところは水ですね
犬小屋の中に入ってゆく鎖
泣いているときも魚は水の中
弟がしじみになってあらわれる
雨の中走るだんだん雨になる
そしていま畳の上に置く両手

■ 主な掲載作品『あぶく』

あぶくから生まれたようだ海が好き
鶴折るか兜を折るかまだ白紙
うつむいている平和もうお疲れか
泣け笑え喜怒哀楽と踊らんか
鳥になる何度試したことだろう
春画捨てきれずに後期高齢者
推敲を重ねて残す生きる文字
ピエロにも鬼にもなれる貌を持つ
三角形長い二辺をつい歩く
抱きあつて骨の匂いをかいでいる
粉々に割れても光る記憶片
責任を取らずに消える写真から

黒川 孤遊 氏



平成30年6月29日発行
四六判ハードカバー・204頁
飯塚書店 定価2000円(税別)

赤松 ますみ 氏



■ 主な掲載作品『川柳作家ベストコレクション 赤松ますみ』

一輪の花予言者のように咲く

掬われて天女になってゆく金魚

むらさきになったり透けてしまったり

白いピアノになろうなろうと白鳥は

うつすらと非のあるところから時雨

痛いから生きてゆけるのだと思う

おぐま座こぐま座ふゆのやわらかさ

するするとロープほどけてゆく五月

しずめては浮かべて折ることばかり

さつきまで花を束ねていたリボン

仮縫いのかたちのままで秋がゆく

大好きな町やまもが熟れている



平成30年12月31日発行
新書判ソフトカバー・96頁
新葉館出版 定価1200円(税別)

令和元年度 第三回 理事会

日時 令和元年12月10日(火) 12時から
場所 プレミアホテルCABINI大阪

出席理事 17名 出席監事 1名

議長に小島理事長を選出、次の議案を審議した。

議案第1号 令和2年度事業計画(案) 承認の件

議案第2号 令和元年度収支補正予算(案) 承認の件

議案第3号 令和2年度収支予算(案) 承認の件

議案第4号 顧問および川柳文学賞選考委員・常任幹事推薦の件

その他 第13回川柳文学賞の受付状況 他

第1号議案から第4号議案、その他まで慎重審議の結果、議

長の報告通り可決成立。最後に議長から謝辞を述べ午後4時に

閉会した。

(顧問・個人会員)

令和元年6月以後(敬称略)

謹んでお悔み申し上げます。

逝去日	役職	お名前	年齢
6/3	顧問	久保田半蔵門	85
6/6	顧問	田辺 聖子	91
6/18	顧問	林 えり子	79
9/5	個人会員	中原みさ子	76



令和元年度 80歳以上の功労者略歴

(敬称略)

山形県 青木 土筆坊

あおき つくしん坊

昭和6年10月27日生



高校生だった昭和22年頃、大谷五花村らと出会った。川柳に初めてふれるのは、高校卒業後の昭和25年、小学校の代用教員時代に教室で句会が行われ教師らと参加。

昭和43年、転勤先の酒田市で酒田川柳会に参加。定年後、新聞川柳に投句、平成14年から川柳べに花クラブに入会、現在7代目主幹を務める。

福島県 真弓 明子

まゆみ あきこ

昭和9年7月1日生



昭和47年、いわき番傘川柳会入会、昭和54年「番傘」川柳誌に初投句、昭和56年番傘川柳本社同人となる。

昭和58年第3回福島県文学賞受賞

句集「夜の虹」

平成4年 吉野せい文学賞奨励賞受賞

エッセイ集「ちよつとノルウェイの森まで」

平成6年5月 「舞い柳 真弓明子川柳作品集」

平成8年9月 「百花繚乱 真弓明子句評集」

現在、いわき番傘川柳会会長

東京都 近江 あきら

おおみ

昭和5年3月19日生



川柳白梅会会長

北国新聞社柳壇選考

第1回国民文化祭文部大臣賞、第4回全日本誌上

大会平成柳田留賞、第24

回全日本川柳大会文部大臣奨励賞

著書「近江あきら集」砂漠の夕日」川柳作家

全集 近江あきら」

福井県 久崎 田甫

ひささき たんぽ

昭和11年1月16日生

昭和55年4月 読売新聞地方版へ投句開始

昭和59年9月 福井県川柳大会へ参加



昭和60年 三國番傘川柳会へ入会、昭和63年 番傘ばんば川柳社同人、平成3年4月 番傘川柳本社同人、平成4年11月 三國番傘川柳会会長

平成23年4月 番傘ばんば川柳社会長

平成26年4月 全日本川柳協会常任幹事

平成31年1月 福井県文化芸術賞受賞

兵庫県 平山 繁夫

ひらま しげお

昭和4年10月20日生

時の川柳社名誉主幹

NHK神戸文化センター講師、全日本川柳協会

顧問



昭和52年 神戸市あじさい賞(文化活動)、昭和63年 第3回国民文化祭知事感謝状、平成14年 神戸市文化功労賞、平成17年 文化団体半どん文化功労賞、同年 川柳・大雄賞

著書「四季逍遙」、「川柳作家文学を歩く」、「川柳作家全集 平山繁夫」、川柳「妻」監修、合同

句集「燎原」

全日本川柳誌上大会のご案内

(令和柳多留第1集通巻22号)

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」(令和柳多留第1集通巻22号)を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ(一社)全日本川柳協会の権威ある三大自然行事ですので、こぞってご参加ください。

一般社団法人 全日本川柳協会

理事長 小島 蘭 幸

出版委員長 西出 楓 楽

課題と共選者(各題2句・連記)

「新しい」 川崎 信 彰 — 浅原 志ん洋 共選

「満足」 江崎 紫 峰 — 三宅 保州 共選

「輪」 水野 壱 郎 — 土田 欣之 共選

「重ねる」 酒井 青 二 — 久崎 田甫 共選

「ヘルパー」 岩田 明 美 — 西出 楓 楽 共選

第二次選者 小島 蘭 幸 江畑 哲 男 長谷川 酔 月
竹田 光 柳 重 徳 光 州

参加費 2,000円(投句料・『令和柳多留第1集通巻22集』代金含む)
賞 令和柳多留賞・川柳大賞・NHK会長賞
日本青少年育成協会会長賞・全日本川柳協会賞
全日本川柳誌上大会賞(予定)

締切 令和2年1月31日(金)〈当日消印有効〉

発表・表彰 第44回全日本川柳秋田大会(2020年6月)

参加方法 参加用紙に記入し、参加費2,000円(振替又は小為替)とともに下記へご送付ください。

〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1-11-905

一般社団法人 全日本川柳協会

電話 (06) 6352-2210

FAX (06) 6352-2433

振替口座 00970-9-3575

第44回 全日本川柳2020年秋田大会

日時 2020年6月14日(日) 午前9時開場
会場 秋田キャッスルホテル
〒010-0000 秋田市中通1-3-5

交通機関 JR「秋田駅」西口下車、徒歩10分
JR「秋田駅」西口下車、バス「木内前」下車徒歩1分

主催 一般社団法人 全日本川柳協会・全日本川柳秋田大会実行委員会
後援 文化庁・秋田県・秋田県教育委員会・秋田市・秋田市教育委員会・秋田県芸術文化協会・秋田魁新報社

宿題 第一部 4月15日締切(当日消印有効)
事前投句 一般(高校生も含む) 部門

「田」山口まもる 選 「重」い 新家 完司 選
「拓」く 安藤 波留選 「あふれる」大楠 紀子 選

事前投句 ジュニア(小・中学生) 部門
「発」見 仁多見千絵選 「駅」大場 孔晶 選

「ボケット」竹崎たかひろ 選
専用紙のない方は2×16cmの句箋一枚に一句を記入、各題一句無記名、封筒の裏面に住所、氏名明記。

投句料 一、〇〇〇円(定額小為替・現金書留)を同封して左記宛に郵送
または郵便振替口座へ送金のこと(当日消印有効)。

投句先 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11
ステップイン南森町905

一般社団法人 全日本川柳協会 宛
TEL 06(6352)2210 FAX 06(6352)2433

郵便振替口座 00970-9-3575
講演 「ことばの力 秋田の魅力」 講師 浅利 香津代 様

宿題 第二部(当日投句・11時締切)
「歌う」大石 粹選 「好奇心」矢沢 和女選

「発」見 いしがみ鉄選 各題二句 当日配布の句箋に記入。
第二次選者 赤井 花城 田中 新一 安藤 紀奈

参加費他 高瀬 霜石 鈴木 順子
四、〇〇〇円

表彰 (1)文部科学大臣賞 (2)参議院議長賞 (3)川柳大賞
(4)大会賞 (5)ジュニア部門は賞状とメダル

全日本川柳秋田大会実行委員長 長谷川 酔 月

〈表彰式典・懇親会ご案内〉

◎表彰式典 2020年6月14日(土) 13時から
川柳文学賞・功労者・大会連続参加者・令和柳多留入賞者

大会連続参加者の表彰は自己申告のため日川協事務局まで申請してください。

◎懇親会 表彰式典・大会終了後、同一会場で
参加費 八、〇〇〇円(会食・アトラクション)

大会・懇親会のお問い合わせ先
全日本川柳秋田大会実行委員会事務局 宛

〒010-0953 秋田市山王中園10-17 17シライトマンシン306

TEL 090(2973) 8871・FAX 018(802) 0870
菅原 浩 洋 方

TEL 090(9031) 0687・FAX 018(832) 1900
藤 咲子 方

大会・懇親会の参加費の送金先 4月15日締切
郵便振替口座番号 02230-9-1127870

全日本川柳秋田大会実行委員会

〈宿泊のご案内〉

1 泊朝食付き、お一人様/税金・サービス料込
秋田キャッスルホテル

2 イーホテル秋田 (秋田市中通1-3-5) シングル 10,000円

3 ホテルパールシティ秋田大町 (秋田市大町2-2-12) シングル 8,800円

4 ホテルパールシティ秋田大町 (秋田市大町2-6-25) シングル 8,500円

ホテルパールシティ秋田大町 (秋田市大町3-4-18) シングル 8,500円

※記載の1~4のホテルが全て満室の場合は、ご相談の上、記載されてい
ないホテルをご案内させていただきます。

※取消料に関しては、宿泊のご案内にてご確認をお願いいたします。

宿泊の申し込み、問い合わせ先
東武トップツアーズ株式会社秋田支店 (担当) 横山・右波・中島

TEL 010-0951 秋田市山王2-1-40 田口ビル1F
TEL 018-866-0109 FAX 018-866-0177
宿泊の申し込みは専用申込用紙にご記入の上、郵送または
FAXにてお申し込みください。

第34回 国民文化祭にいがた

開港150周年—みなとまちロマン新潟で川柳の祭典（令和元年10月6日）
事前投句1,719名、当日333名

◎入賞句

文部科学大臣賞

島あげて医師を波止場で出迎える 東京 秋広まさ道

国民文化祭実行委員会会長賞

小さなグー大きなパーが受け止める 鳥取 竹村紀の治

新潟県知事賞

校内の夢の島です保健室 宮城 雲石 隆子

新潟県教育委員会教育長賞

修羅越えて私の水になりました 宮城 丸山あずさ

第34回国民文化祭

第19回全国障害者芸術・文化祭新潟県実行委員会会長賞

戦争の匂いの消えぬ島の鏼 宮崎 間瀬田紋章

新潟市長賞

盆踊り覚えわたしの街になる 千葉 橋本 祐子

新潟市教育委員会教育長賞

わたくしの中のドナーを抱きしめる 千葉 鈴木 和枝

第34回国民文化祭

第19回全国障害者芸術・文化祭新潟市実行委員会会長賞

お守りが背中で踊る通学路 岐阜 紙谷 清

一般社団法人全日本川柳協会理事長賞

淀みなく吊辞を読んで風になる 岩手 熊谷 岳朗

新潟県川柳連盟会長賞

あさつてへ百の蕾がスタンバイ 大阪 森井 克子

句集を出したら

日川協・日本現代詩歌文学館
国会図書館に寄贈しましょう

編集後記

★令和2年の新年を迎え心新たにあげましておめでとう
ございます。理事長の挨拶の中にありますように昨年は
日本の各地で災害が多く、川柳人の中にも被害を受けた
方がおられると思います。お見舞い申し上げます。

★日川協も昨年6月の理事会・総会で新しい人事が決ま
りスタートしました。川柳に対する一般の人々がもつと
川柳に関心を持ってもらうように今年はこの手で
プッシュしたいと思っています。

★今年の事業として、日川協全国大会（秋田）、国民文化
祭（宮崎）そして令和柳多留（誌上大会）と川柳家の皆様
に楽しんでいただけるように日川協も頑張りたいと思っ
ています。

（事務局長 本田智彦）